

GLAFS コアセミナー (2017)

月	日	CS1	CS2	
			内容	講師
4月	15日	グループ共同研究発表会 1 研究進捗状況発表会 1		
	22日	研究進捗状況発表会 2	セミナー 1 「2050 年を構想する」 (第 1 回グループワーク技法セミナー；個人の限られた手持ちの情報を関連づけて物事の大筋を推定する：フェルミ推定) 人口推計・人口移動の基礎的データ等を示し、地方消滅、CCRC 構想などの問題点なども示した上で、学生には、グループ別に、ありうる将来の可能性（シナリオ）を描いてもらい、ディスカッションする。	大方潤一郎（工学系研究科教授・高齢社会総合研究機構機構長）
5月	27日	研究進捗状況発表会 3		
6月	3日	グループ共同研究発表会 2		
	10日		セミナー 2 「AgeFriendlyCity (AFC)」 WHO が求める AFC 評価はどのように評価されるのか、理想とする AFC と高齢社会における地方自治体の政策とを如何につないでいくべきかについて考える。	齊藤恵美子（秋田市役所福祉保健部長寿福祉課エイジフレンドリーシティ推進担当課長）東福光晴（富山市環境部環境政策課課長代理）ローゼンバーグ恵美（WHO 健康開発総合研究センター〔WHO 神戸センター〕テクニカル・オフィサー）
	17日		セミナー 3 「農ある暮らしのはじめかた」農作業・ガーデニングに関してシニアのニーズはどこにあるのか、また長続きするには、どのような支援が必要となるかを学ぶ。	佐藤啓二（一般財団法人都市農地活用支援センター常務理事・統括研究員）堀隆雄（おくとま海沢ふれあい農園代表）
	24日		セミナー 4 「シニアの能力を生かした就労」リタイア後も何かしら仕事を続けたいと考えるシニアは多い。虚弱化しても、自分の役割が果たせるようにするには、どのような社会的支援が必要となるであろうか。	宇佐川邦子（リクルートジョブズジョブズリサーチセンター センター長）緒形憲（㈱高齢社代表取締役社長）戸枝陽基（社会福祉法人むそう代表）
7月	1日		セミナー 5 「住民主体のコミュニティケア活動」住民主体のコミュニティケア活動は、担い手の高齢化などを受けて機能不全に陥る寸前である。この課題を乗り越えるために、住民主体のコミュニティケア活動の取り組み事例について学ぶ。	鈴木恵子（すずの会）柴崎光夫（鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会）

7月	8日		セミナー 6 「シニアのニーズをビジネスにつなげるⅠ」 高齢者の困りごと、悩み事はどのようにビジネスにつなげていけばよいのか、そのノウハウについて実践者からお話を伺い、アプローチ方法を考える。	中村善貞（富士フイルム（株）R&D統括本部 先端コア技術研究所 兼経営企画本部イノベーション戦略企画部イノベーションアーキテクト）
			セミナー 7 「超高齢社会と地方自治体Ⅰ」 高齢化・人口減少が先行する地方の「まちづくり・むらおこし」（暮らしやすい地域社会の物的・社会的な生活環境を共創する活動）をどう進めるべきかを考える。	山下祐介（首都大学東京都市教養学部人文社会系准教授）
	15日		セミナー 8 「シニアのニーズをビジネスにつなげるⅡ」 高齢者の困りごと、悩み事はどのようにビジネスにつなげていけばよいのか、そのノウハウについて実践者からお話を伺い、アプローチ方法を考える。	瓜坂和昭（大和ハウス工業（株）ヒューマン・ケア事業推進部ネクストライフ事業推進室長）
	29日	グループ共同研究活動		セミナー 9 「第2回グループワーク技法セミナー：小集団の知識を集約し構造化する：KJ法型WS」
8月	1-2日	グループ共同研究発表会 3 研究進捗状況発表会 4	セミナー 10 「第3回グループワーク技法セミナー：大集団の知識を集約し構造化する：ワールドカフェ」	後藤純（高齢社会総合研究機構特任講師）
10月	7日		セミナー 11 「シニアの閉じこもり予防 1（メディア系）」 高齢者の閉じこもりは、QOLの低下や要介護に陥りやすい。そこで、閉じこもり予防のために、高齢期の関心事や継続的・主体的に関わることができる活動を理解する。	戸塚圭介（株第一興商執行役員・エルダー事業開発部部長）
	14日	グループ共同研究活動		
	21日	グループ共同研究発表会 4		
	28日		セミナー 12 「住まいとリハビリ」 病院でのパワーリハの時代は終わり、自宅や近所での生活機能リハ、社会参加リハへと時代が変わっている。そこで、住まいとリハビリ、それに対応したバリアフリーの実践について学ぶ。	井上文（NPO法人サース代表理事） 小林由実（UR都市機構東日本賃貸住宅本部東京北エリア経営部ストック技術課長） 渡辺良明（もも太郎備代表取締役）

11月	18日	研究進捗状況発表会 5		
	25日		セミナー 13 「シニアをアシストする移動機器」 Ageing in Place に資する地域住環境のあり方を考えるとき、歩行者環境が貧しい。そこで、移動環境が歩行者や電動車椅子対応になっているか、今後どういう移動機器が必要とされていくのかを考える。	河野誠（㈱長谷工アネシス ICT 活用推進PJ室技術主幹）山下典之（ヤマハ発動機㈱技術本部）佐治友基（SBドライブ㈱代表取締役社長兼 CEO）
12月	2日		セミナー 14 「高齢者の最期の時を支える 1」最期に向けた自分の意思を明示しておくことの重要性は指摘されている。自分の意思が明示できなくなった場合や死後どのようなトラブルが起きるか、そのためにどのようなことを事前に取り組んでおけばよいかについて考える。	佐藤健雄（秋田市エイジフレンドリーパートナー企業ゆりはか）尾崎力弥（弁護士法人岡山パブリック法律事務所副所長・社会福祉士）矢野洋（㈱アクティブ・RE 代表）
	9日		セミナー 15 「高齢者の食行動」 家族形態や家族機能の変化から、高齢者の孤食が増加している。幸せを感じる食行動とは何か、どのように最期まで食を楽しむ生活を送ることができるのかを考える。	品田知美（早稲田大学文学学術院非常勤講師）山脇直人（ハウス食品グループ本社㈱新規事業開発部）
	16日	グループ共同研究発表会 5		
1月	20日		セミナー 16 「シニアの閉じこもり予防 2（体操系）」高齢者の閉じこもりは、QOL の低下や要介護に陥りやすい。そこで、閉じこもり予防のために、高齢期の関心事や継続的・主体的に関わることができる活動を理解する。	坂詰真二（スポーツ&サイエンス）高橋競（東京大学高齢社会総合研究機構特任研究員）
	27日		セミナー 17 「高齢者の最期の時を支える 2」最期に向けた自分の意思を明示しておくことの重要性は指摘されている。自分の意思が明示できなくなった場合や死後どのようなトラブルが起きるか、そのためにどのようなことを事前に取り組んでおけばよいかについて考える。	小佐波幹雄（社会福祉法人品川区社会福祉協議会品川成年後見センター後見第一係係長）平松太郎（NPO 法人ライフサポート東京理事長）
2月	10日	研究進捗状況発表会 6		